

公明党議員団視察報告書

2018年 11月 14日

貝塚市議会議長

田畑 庄司殿

参加者 中山 敏数
谷口 美保子

■岐阜県可児市

日 時；平成 30 年 11 月 1 日(木) 午後 2 時

場 所；可児市役所

視察事項；「主権者教育」について

◎議会の取組みについて

平成 29 年 3 月 24 日に議会基本条例改正、主な内容は

1. 専門家による調査機関の設置
2. 議長及び副議長の選出にあたり、立候補制による所信表明を行う機会を設ける
3. 条文に記載済みの議会報告会のほか、同様に実施している地域課題懇談会における市民からの意見の反映も明記
4. 常任委員会の代表者による質問ができる旨、明記



説明して頂いた澤野議長

平成 30 年 5 月 18 日～21 日の 4 日間にわたり、地域に入り議会報告会を開催された。

その他の取組み

1. 議会の情報発信
2. 各種団体との懇談会
3. 議員研修の充実
4. 定数・報酬・委員会の在り方について P T の設置等

◎主権者教育の取組み

地方都市の悩み→ 若い世代の都市部流出→ 地域の担い手の減少→ 地方都市の衰退

この流れは少子高齢化のなか、地方都市の切実な悩みである。

その課題への可児市の主な取組みとして

1. 子ども議会の開催（平成 16 年度より毎年実施）

例) 広見小学校の場合

6 年生 147 名 4 クラスを 2 班にわかれて 2 回実施

内容：議会ってどんなところ？議会体験をしてみよう

財政難の中、どの事業を廃止するか意見を出し合い最後に採決を行う。

廃止事例：①こども医療費の廃止

②お年寄り向けの無料バス廃止

③市立図書館の廃止

④市民温水プールの廃止

結果として④市民プールの廃止が多数を得る結果となった。

2. 大人と若い世代、特に高校生とのかかわりをいかに持つか

可児市の魅力を知る場として

- ・ 地域への愛着や当事者意識の醸成
- ・ 広い視野や新しい経験の獲得
- ・ 社会や学問のつながりの実感など

ふるさと発展に寄与する人材育成が可能となり、地域課題解決型キャリア教育へと発展

◇キャリア教育支援開始のきっかけ

可児高等学校が求める大人とかかわる機会と、議会が求める若い世代の意見を聴取する機会を設ける方向性が合致したことから始まった。

学校：キャリア教育推進のためには、地域で活動する大人と関わる機会と運営が必要

議会：基本条例に規定される市民は有権者だけではない。20 歳未満の若い世代との関わる場が必要。

◇地域課題懇談会（高校生議会）

目的：各種団体等の協力を得て、若い世代の意見を聞く機会を設け、地域の活性化や課題に取り組むことで、地域の担い手育成につなげていく。

内容：議会主催のキャリア教育支援の取組みを地域課題懇談会（高校生議会）として実施

流れ：キャリア教育（地域課題懇談会等）・ 高校生議会（議場での活動報告）

現状：地域課題懇談会実施会議を会議規則内に位置づけし、議会活動として取り組む体制整備を行っている。また、支援 NPO との連携強化を図っている。

この取組みから高校生議会として、平成 26 年 2 月採択された意見書

「地域課題に若い世代が関わる機会を設けることについて」

私たちは、可児高校の地域課題解決型キャリア教育に参加し、可児市長、職員の方、地域の方、医療関係者など様々な職種や経験を持った方たちとの関りを通して、気づきや発見をたくさん頂きました。そして、私たちを迎えて下さった皆様から「地域をよくしていこう」という深い思いを感じ、思いを受け継ぎ、地域の未来を担えるよう、今を頑張ろうという意欲が高まりました。

私たちのような体験を積み重ねれば、若者は元気になり、自然に「将来は地元で暮らそう」「地元のために何かしていこう」という気持ちになります。

そして、このような機会を充実すれば、可児市はきっと、若い力が集まり、より魅力的なまちへと発展を遂げると思います。

平成 26 年 2 月の意見書

- I. 医療や福祉、介護をはじめとした地域の課題を、『大人』の皆さまが立場を超えて共有し、話し合える『場』を設けること
- II. 地域の課題を話し合う『場』に、高校生はもちろん、大学生や中学生など多くの世代が参加できるようにすること

平成 27 年 2 月の意見書

- I. 子育て支援や防災など、地域課題の解決を目指す様々なイベントや活動に私たち高校生が企画の段階から参加できる機会を設けること

平成 28 年 2 月の意見書

- I. 地域課題の解決を目指す様々なイベントや活動に小中高校生を含め、可児市民みんなが多世代にわたって活動できる機会を設けること。

キャリア教育を受講した高校生の中には、当初都心に行つての医師を目指していたが、地元で働く生の医療現場の方に接することによって進路を見直し、地元の医療現場で働くようになった生徒も出てきたとの事。

本市としても可児市の事例を参考にし、地方都市の悩みである若い世代の都市部流出に歯止めをかけ、地域の担い手の減少を防ぎ、市の衰退に繋がらないよう議会としても提案をしていきたい。

■愛知県小牧市

日 時；平成 30 年 11 月 2 日（金） 午前 10 時

場 所；小牧市役所

視察事項；「地域ブランド戦略」について

【小牧市の背景】

イオンは代表拠点としてイオン小牧店を置いている。物流会社が多く、昼間人口が115%と、勤務地としての要素も多く、尾張地方北部で夜間人口の方が減少する唯一の市である。

県営名古屋空港・東名、名神高速道路、中央自動車道のJCT等、交通の要所である。

地域資源として織田信長公が初めて自ら築いた小牧山城があり、あの有名な「小牧・長久手の合戦」で家康が小牧山に本陣をかまえた。

【地域ブランド戦略とは】

小牧市と聞いて人々が思い描くイメージを小牧市の魅力とし、他市と差別化できるという強みに市民全体として強みに統一化していくこと。小牧市のイメージづくりをすることで、「訪れたい」「住みたい」という意向の向上や「愛着や誇り」を醸成させていく。そして、より人々や企業から選ばれるまちになっていくために、小牧市の魅力を向上させるイメージづくりが必要になる。そのために必要な課題を調査し抽出。小牧市が目指す街のイメージを形にするブランドコンセプト開発から始めた。「こども夢・チャレンジNo. 1都市宣言」が宣言され、そこから地域ブランドにつながる。

【地域ブランド戦略 実施の背景と目的】

◎少子高齢化・人口減少社会の到来・地域主権時代の進展⇒◎自治体間の競争がますます激化していくという推測

➡訪れたいまち 住みたいまち 住み続けたいまちとして選ばれる、魅力あるまちづくりを行っていくことが必要である

➡地域ブランド戦略の実施➡ブランド調査から始める

調査の結果で地域ブランドコンセプトを決める

ブランドの柱・その1 史跡小牧山 その2 子育てしやすいまち

ブランドの推進としてブランドブック・えほん版ブランドブックを制作、その本で小牧市がどのようなまちを目指していくかという「ブランドコンセプト」を策定の経緯等も含めて紹介し市民と共有していく

【事業の流れ】

平成24年度 地域ブランド調査の実施等

平成25年度 コンセプトの決定・ロゴマーク・キャッチフレーズの決定等

平成26年度 地域ブランド戦略推進委員会発足、アクションプラン策定等

平成27年度 地域ブランド推進連絡員設置・研修会の開催等

平成28年度 ピクトサイン設置・ブランドポスター作成・シネアド上映等

平成29年度 WEB広告・デジタルサイネージ等

平成30年度 新たなアクションプランの策定・地域ブランド調査等

☆特色として地域ブランド戦略推進委員会を庁内横断で立ち上げる

☆ロゴマークの色合いをこどもたちの投票で決める

☆本年度で地域ブランドの追跡調査を行っている



ロゴマーク

【課題と今後の取組み】

- ★企業・市民を巻き込んで進めていくことが不可欠である。
- ★速効性はないが必要である。結果が見えづらい。
- ★前向きに取り組んでいく人を少しでも増やしていくことが大切である。

【まとめ】

地域、自分の住む市に愛着と誇りを持つための取組みとして参考にする点が多くあった。貝塚市においても、かつてコスモスアイデンティティと銘打ち取り組んでいたことがあったが、内容・ネーミング等も新たに現在取り組んでいる。色々なシティセールス事業を横で結んでいけないだろうかと考えさせられた。